

『インフルエンザ最新情報』

今年のインフルエンザ
流行はいつから？

日本のインフルエンザの流行は例年12月下旬～翌年2月がピークでした。しかし、近年は流行開始が前倒しになる傾向があり、今年も9月末～10月初旬から増加が予測されています。

インフルエンザの症状

ウイルスの感染を受けてから2～3日間ほどの潜伏期間の後に、通常38℃以上の高熱、頭痛、筋肉痛・関節痛などが突然現われ、咳、鼻汁などの上気道炎症症状がこれに続き、約1週間の経過で軽快するのが典型的なインフルエンザで、いわゆる「かぜ」に比べて全身症状が強くなります。

特に、高齢者や、呼吸器、循環器、腎臓などに慢性疾患を持つ患者さん、免疫機能が低下している患者さんでは、肺炎などの二次的な細菌感染症を起こしやすいことが知られており、入院や死亡の危険が増加します。

予防接種が推奨される理由
～重症化リスク～

インフルエンザは、決して軽視できる病気ではありません。多くの学会より、インフルエンザによる合併症や死亡を減らすため、生後6ヶ月以上のすべての人にインフルエンザワクチンの接種が推奨されています。

対象者	推奨される理由
65歳以上の方	重症化や死亡のリスクが最も高いため
基礎疾患のある方	糖尿病、慢性肺疾患、心臓病、肝臓病、がんなどの持病は、重症化リスクを高めるため
医療・介護従事者	自身の重症化予防はもちろん、患者や利用者への感染拡大を防ぎ医療・介護体制を維持するため
妊婦	妊婦自身の重症化予防と胎児を守るため
家族に高齢者や基礎疾患のある方がいる方	自身が感染源となり大切な家族にウイルスを広げてしまうことを防ぐため

中山 秀明
(感染管理特定認定看護師)



(右表)に該当する方は、重症化リスクが高いとされておりインフルエンザワクチン接種が推奨されます。

ワクチンの変更点
～4価から3価へ～

今シーズンはワクチンに変更点があります。世界保健機関(WHO)の推奨に基づき、これまで主流だった4価(4株)ワクチンから3価(3株)ワクチンへの切り